

刻む会 たより

No.45

水没事故70周年 特集号

2012. 3. 10

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局

宇部市常盤町一―九(宇部緑橋教会内) Tel.0836(二)8003

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01590732405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

追悼碑建立募金

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01370998603

名義 長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立基金

ホームページ

<http://chouseikizamukai-hp.web.infoseek.co.jp/index.htm>

長生炭鉱水没事故

七〇周年追悼集会報告

―追悼碑建立の願い―

合唱団の『海の墓標』響きわたる―

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

内岡 貞雄

1. 西光寺訪問

二月五日、私たちはまず西光寺に行きました。本堂にはすでに尼僧の尹玉基(ユン・オクキ)さんがおられました。彼女は昨年七月に「刻む会」事務局を訪ねて来られた方でした。尹さんは遺族会の三人(金会長、全さん、朴さん)が位牌を前に韓国式のお参りをされるのを見て涙ぐんでおられました。午後からの追悼集会で尹さんのご紹介と、彼女から証言をいただくことを快諾いただきました。

チェサは五〇人ほどの参加者が見守る中で行われました。その後、海岸で献花とお祈りをしました。「アボジー、アボジー、アドウリ ワッスムニダ!」(お父さん!お父さん!息子が来ましたよ!)と叫ばれる全錫虎さん、「甥」(チョッカ)にあたる金亨洙会長も朴洞模さんも頭を下げて沖合のピーアを見つめておられました。一日も早く追悼碑の建立を実現しなくてはという思いを、私たちは強く持ちました。

2. 七〇周年追悼集会(文化会館)

『オープニング(独唱「カゴパ」(帰りたい))』

午後二時から会場の二五〇人の皆様とともに追悼集会がはじまりました。まず、周南市の大成京子さんの独唱「カゴパ」(帰りたい)が会場いっぱいに響きわたりました。犠牲者の無念なお気持ち伝わってきました。



チェサ後、海岸で献花し、泣き崩れる
全錫虎(チョン・ソッコ)さん

○長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会
会長挨拶 (全文5頁に掲載)

○長生炭鉱水没事故 大韓民国遺族会
会長 金亨洙氏 挨拶 (全文7頁に掲載)

○遺族による証言

① 全錫虎さん(故 全聖道・息子)

チョンソク

チョンソンド

【ピーアから水が湧きあがる】

私は犠牲者・全聖道氏の次男で全錫虎です。一九四二年二月三日、長生炭鉱の水没事故の時に、私は西岐波小学校の五年生でした。その時私は学校で勉強中でした。ちょうど午前一時頃だったか、学校の先生が「長生炭鉱でお家の方が働いている子どもたちはすぐ帰るように」と言いました。すぐに運動場に出てピーアの方を見ると、二本のピーアから水が湧き上っているのが見えました。それを見た私は急いでピーアのある方向に走り出しました。

【長生炭鉱の水没事故記】

長生炭鉱の本坑口に行ってみると多くの人たちが集まっており、「アイゴ!」「アイゴ!」と泣き叫ぶ人であふれていました。小学校5年ですからよくわかりませんが「何があったのか」と覗いてみると、ピーアのあったところから水がたくさん出ていました。その時、私は炭鉱で事故があったということがわかりました。

私たち家族にとつて、この二月三日という日は心に、口では言い表せないような辛い思いの日になりました。

【一家の苦しい生活を母は支えました】

それからというもの、私たち家族は一日一日

を過ごすのがつらい日々となってしまいました。

お母さんは炭車を棧橋まで運ぶというきつい仕事をしなくてはなりません。しかし私たちは数か月後、炭鉱から追放されしかも何の補償もありませんでした。水没事故で炭鉱の労働力が余ってしまった、一家の大黒柱の父(アボジ)を失った私たち家族は長生炭鉱から追放されてしまいました。どんなに泣いて「炭鉱を追い出さないでくれ」と言っても誰も聞いてくれず、炭鉱を追放される身となってしまいました。

私たちは住む家もなく途方にくれてしまいました。そのうち同級生の福田輝夫さんのお父さんの馬小屋が借りられることになりました。私たちは他に行くところもありませんので、その馬小屋を修理して一家で生活することになりました。馬の糞のくさい臭いがするところでの生活はとてもつらかったです。

子どもたちの生活のためのお金を稼ぐため、お母さん(オモニ)はいろんな仕事をしました。スイカやトマトを売ったり、お酒を不法に造って売りながら生活しました。そうしたわずかな収入で私たちは生活するほかはありませんでした。

それから私は高等小学校1年(※1)に上がり、また大東亜戦争(※2)が一番激しい時に、私は宇部の造船会社に動員されました。そこで敗戦まで働かされました。それから八月一五日に解放

(光復節)を迎えました。

※1 当時、国民学校高等科と呼ばれた。

※2 アジア太平洋戦争

【韓国の故郷に帰ってみても】

私たちは韓国に帰ることになりました。韓国に帰ったとしても私たち一家を歓迎してくれる人は誰もいけれど、船に乗って帰りました。

故郷といって故郷に帰ってみても、誰も歓迎してくれず、お金もなく住む家もなく、土地さえありませんでした。ご飯も食べられなく、兄弟姉妹は離ればなれになり、それぞれ奉公の家で暮らさなくてはなりませんでした。

私は毎日泣いて、毎日お父さんを恨み、私たち兄弟たちはどうしてこうなったのかと、何のために誰のせいでこんな生活をしなくてはならないのかと。日本のためにこうなったと。天皇陛下のためにこうなったと。今でもその時のことを思い出すだけでくやしくて仕方がありません。故郷の友だちはカバンを背負って学校に行くのに、学校にも行けないし、ハングルを習うこともできないし、私はカゴを背負い山に行つて木を切る仕事をしなくてはならない、畑で牛を引いたり牛を飼う仕事。毎日涙を流し、どうしてこういう生活をしなくてはならないのかと、こういうふうにして私は過ごしてきました。

一家はバラバラで兄弟みんな住込みの仕事をして、韓国語を習うことも出来ませんでした。

私は昼に仕事をして、夜、学校に通って韓国語を勉強しました。

【強制連行された朝鮮人の若者】

話しは前に戻りますが、長生炭鉱の社宅に住んで居た時に、私たちの家の横に強制連行されてきた朝鮮人たちの宿舎（収容所）がありました。炭鉱の仕事をするために一九歳・二〇歳・二一歳という若い人たちが連れて来られ、仕事をさせられ、炭鉱に入って仕事をするのを見るにつけ、“地獄のようなところ”で仕事をさせられていたと思われます。それに耐えきれず、宿舎から逃亡する人たちが後を絶ちませんでした。でも脱走して途中で捕まって、労務係に連行されて、事務所内で打たれて、「アイゴー」「アイゴー、私は死ぬしかないんだ」という声を何回も聞きました。そうした脱走した人たちが拷問を受け亡くなった人々がたくさんいたと聞きました。お母さんに一度聞いたことがあります。「アイゴー、アイゴー」という声は何なのか？とお母さんは逃げた人たちの苦しい声なんだと。ほんと、彼らが耐えて生きてほしいと。

【学校でも差別を受けた】

私たちは小学校・高等小学校に行く時、家でキムチを食べて行くのですが、その時に学校に行くくと、「朝鮮人、ニンニク臭い。あつちに行け」と。そういうことがよくありました。韓国人というだけで、家畜以下の扱いを受けたのです。

今の若い人たちはこういうことは知りません。私たち韓国人は日帝時代に誰のために働いたのか、天皇陛下のためだったのか。

【一七年間県庁・市役所を訪問してみても】

私が追悼式に出席して一七年になりますが、長生炭鉱水没事故の際、韓国の若い人々が強制連行されてきました。しかし、韓国政府もそういうことに対してあまり関心を示さなくなりました。大東亜戦争（※）の時の従軍慰安婦のことを考えてください。戦争をしているのになぜ従軍慰安婦が必要でしょうか。慰安婦は必要でしょうか。もしも必要であるなら日本人を連れて行かねばならないのに、なぜ韓国人（朝鮮人）女性を連れて行ったのですか。

私は一九九五年に山口県庁を訪問しました。その時、私と私の母と一緒にまいりました。その時私も証言をしました。韓国から遺族が来た時には県庁では知事が対応しなくてはならないのに部下が来て対応しました。彼らは私たちの顔を一度も見ることがありませんでした。その翌年もまた翌年も同じことの繰り返しが続きました。訪問するたびに同じ言葉が繰り返されます。県庁でも宇部市でも同じでした。一七年間で一回も私たちの望む言葉を聞いたことがありません。なぜ、私たち遺族に苦痛を与えておきながら、なぜその答えを出してくださらないのでしょうか。

【一日も早く追悼碑の前でチエサを！】

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会の山口代表をはじめ会員の皆様方、本当にありがとうございます。皆様の「苦労に心から感謝申し上げます。また、一日も早く長生炭鉱の海岸に追悼碑が建ち、そこで追悼式を行うことができるように皆様に切に切にお願い申し上げます。これで終わりにさせていただきます。皆様ありがとうございます。」

（小見出し注釈は内岡による）



西光寺にて位牌と対面する遺族

左から金亨洙さん、朴洞模さん、全錫虎さん、尹玉基さん

② 尹玉基さん(故 尹徳龍・娘)

ありがとうございます。私はユン・トクリョンの一人娘のユン・オクキでございます。私の父は私が生まれてすぐに強制労働で連れて行かれ、それから六ヶ月の時に亡くなりました。母は二〇歳でした。それから母は苦勞しながら私を育てました。私たちは親戚の家を転々としながら、また全国のあちらこちらを商売しながら生活してまいりました。私は今日、皆様の前に尼さんの恰好で立っております。七〇年ぶりに私は父の位牌と会うことができました。

私はこれまで、父がどこでどのようにして亡くなったのかさえも知りませんでした。父を日本に連れて行かれ、母もそのために苦勞を重ね、そうした中で私は生きてまいりました。私は今までひとり自分のことしか考えない人間でありました。私は今まで本当にほんとうに自分の不幸なことだけを恨みながら生きてまいりました。そういう時に、私はお釈迦様と出会い、仏教の道に入るようになりました。だから今、皆様の前にこのようにして尼の恰好をして立っているのです。

ある時、私のもとに一人の女性が偶然にも訪ねてまいりました。その女性はキム・ヘランさんといいます。彼女は「私は日本語を話すことができる」と言いました。「私の父が広島の方

ある炭鉱で亡くなった」と彼女に話したところ、「じゃあ、私はそこを捜してみしよう」と言ってくれました。そしてキム・ヘランさんは私の父を捜し出してくださいました。彼女は広島から下関の間にある炭鉱という炭鉱はすべて捜して、ついにヘランさんの知人を通して父の名前があるという西光寺のお寺を捜し出すことができたのです。私の父の名前はユン・トクリョンという名です。それから七、八か月後に西光寺(宇部市床波)から父の名前があるという御返事をいただきました。昨年(二〇一一年)七月、西光寺に行つて父の位牌を見たとき、私はどれほど感謝したかわかりません。七〇年を経て、私ははじめて父と対面することができました。お父さんの位牌を見て、位牌を前に私は一時間祈禱をいたしました。それから日本から帰る時に西光寺のご住職様にもお会いいたしました。私は父の霊を韓国に連れて帰ることを心に決めました。そして今年(二〇一二年)二月三日に追悼式を行うということをお聞きしました。キム・ヘランさんを通して、今年は二月三日でなく二月五日が追悼式だということを知り、今、私はこうしてこの壇上に立っています。昨日、ここ宇部に来ました。私は今、日本人の方々が長生炭鉱の事故で亡くなった犠牲者のために、これほどの力を注いでおられることをはじめて知りました。ですから、私は今まで日本という国に持ってい

た良くない感情をなくそうと思うようになりました。なぜならば、皆さんのように長生炭鉱のために力を注いでくださるすばらしい日本人の方々がたくさんいらっしゃるということがわかったからです。このように皆様が力を注いでくださり、いろいろ協力くださっていることに對して、心から感謝を申し上げ、そしてお釈迦さまのご恩恵がありますことを心から願っております。

場内の皆様に深くお願い申し上げます。どうか私たちが願っていることが成就しますように心からお願ひいたします。間違つた日本人の方々はその考えを捨てて、(過去の)過ちを認めることができる日本人として、また、韓国のなかでも日本人を認めてくださらない方々がその考えを改めてくださつて、日本と韓国が一緒になつてすべてのことが成就されますことを心から願っております。

本日はこのような機会をつくつていただきましたことに心から感謝いたします。ありがとうございます。



長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会 会長挨拶

本日は、長生炭鉱水没事故 70 周年犠牲者追悼集会にご参集下さいましたことを心より感謝申し上げます。

現在、私たち「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」は「犠牲者追悼碑建立委員会」と共に、追悼碑建立に向けて全力を注いでいます。そのため、かつて程ご遺族の皆様を大勢迎えることが出来ない状況にありますが、それでも本日は、三名のご遺族を韓国からお迎えすることが出来ました。

振り返ってみれば、韓国遺族との交流は、1991 年 10 月に私共が犠牲者の一部の名簿を人手し、言わば「死者への手紙」を送付したことに端を発しています。その後、手紙にご返信下さった方々に招聘状を送付し、1992 年 8 月に初めて韓国遺族の方々と出会いました。そして翌年、1993 年 2 月 2 日、51 周年の追悼集会に初めて「大韓民国遺族会」として 12 名の方々がご参列下さいました。

また、その翌年には、52 周年の追悼集会に合わせて、今日も歌われる「海の墓標」が、徳山の女性合唱団によって披露されたのを覚えています。

それから毎年、事故が起きた 2 月 3 日前後に私達は、韓国から遺族を招聘し追悼集会を行ってきました。またそれは同時に、在日大韓民国民団と在日朝鮮人総連合会の両団体から多大なご協力を賜り行ってきたことでもあります。

今日の水没事故 70 周年犠牲者追悼集会は、韓国遺族を招いて 20 回目の追悼集会でもあります。

しかし未だ、あのピーアの海の下に沈んだ人々を放置しているといわざるを得ない状況が続いています。それは、かつて日本の傲りによって引き起こされたあの戦争によって、国家権力によって、また国家権力に流されることによって、人を差別し分断した過去の歴史が今も続いていることの証左に他なりません。

かつて、崔承喜(チエ・スンヒ)という、今日では伝説ともいわれる朝鮮舞踏家がありました。彼女の舞に、多くの日本の文化人たちが感銘を受けたように、一人の人間は、異なる文化を本当の意味で誇りと尊敬をもって示すことが出来るのです。そして今も海の下に沈んでいる 183 名も同じ人間なのです。

今もって“歴史の真実に向き合うこと”と、言い続けなければならないことに、憤りを越えて悲しみを覚えています。それでもなお、今私達が為すべきことは、過去の真実に向き合い、一人の人間として出会い、対等に交流していくことであり、それ以外に、平和な未来を作り出していく道はないのです。

この 70 周年の時が、真の歴史を紡ぎ出し、真の平和をつくり出す時となることを願って止みません。

2012 年 2 月 5 日
長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会
代表 山口武信

○長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立
アピール

建立委員長・小川信さんより、熱烈な募金
のお願いがありました。

○合唱「海の墓標」(12、13 頁参照)

『悪魔の飽食』をうたう東京合唱団・『海の
墓標』をうたう山口合唱団
指揮・吉田要 ピアノ・能村久雄
ソプラノソロ・金田まり子



東京合唱団の皆さん三人、周南市からの皆
さん二人の歌声が会場に響きわたりました。

昨年九月に東京合唱団の方々が現地の床波海岸のビーチに向かい「海の墓標」を歌ってくださいました。その時の光景がよみがえり、合唱団の皆様「海の墓標」にかける意気込みが伝わってきました。本当に七〇周年の追悼集会にふさわしいものとなりました。また、周南市から駆けつけてくださいました山口合唱団の皆様方、素晴らしい合唱をありがとうございました。

○来賓挨拶



シン ヒャン グン
辛亨根 氏

(駐広島大韓民国総領事)

七〇年前に一八〇人以上の被害者を出しました長生炭鉱水没事故は、不幸な過去の傷跡であるのみならず、悲惨な労働環境を強いた末に尊い生命をも奪ってしまった、人権問題でもあります。

そのような事故の犠牲者を悼む追悼式にご参加になりました生存者とご遺族の皆様は、心より慰労のお言葉を捧げます。なお、「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の皆様をはじめ、亡くなられた方々とそのご遺族のためご献身なさいます皆様には深い感謝の念を申し上げます。

事故から今年で七〇年が過ぎましたが、その間、市民の自発的真相糾明運動や慰霊活動が絶えず行われてきました。韓国政府も二〇〇七年に被害状況を確認し、その調査結果を報告書にまとめましたが、さまざまな理由によりこれという進展を成し遂げられず、遺憾に思っております。

昨年三月の赴任以来私は、現場を訪れ「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の皆様との協議のもと、山口県知事および宇部市関係者にご遺族の思いを伝え、遺骨の発掘と慰霊事業への支援など、諸事においてできる限りの協力をするよう求めて参りました。ご存知のように、さまざまな現実問題が絡んでおり、残念ながら 私たちの念願に答えられる返事は未だ受け取っておりません。

長生炭鉱水没事故をはじめ数々の強制徴用・強制労働関係の未解決の問題は、至るところ、日本政府の誠実な対応があつてはじめて解決の糸口をつかめると思っております。そのような心得をもつて、これからも粘り強く、最善を尽くしていきたいと思ひます。

改めて一八〇余りの無辜の命のご冥福をお祈りし、ご遺族へのお慰みのお言葉と、この問題の解決のためにご献身なさる日本市民の皆様へのご感謝の念を申し上げます。

ご清聴ありがとうございます。

○碑文朗読・追悼歌(アリラン)合唱

碑文朗読を藤井和義さん(追悼碑建立委員会)が一言ずつ思いを込めて朗読されました。続いて裴東録(ペトンノクさん、在日語り部)の指揮で追悼歌アリランを場内の全員で歌いました。ご遺族の四人、「刻む会」の山口代表も壇上から一緒に思いを込めた合唱となりました。最後に、水没事故の犠牲になつた方々を偲びながら黙祷を行ない閉会となりました。



韓国遺族会 会長挨拶

山口県宇部市 市民の皆様 そして、山口代表をはじめとする役員、会員の皆様、公私多忙にも関わらず多くの方々がお集まり下さいましたことを心から感謝申し上げます。

水没事故が起きてから 70 年という歳月が過ぎてもあの海の申にぽつんと立っているピーヤは数万のおしよせる波と戦ってきました。70 年もの歳月が過ぎたのにも関わらず何の変化もない状況を見守るしかない私たち遺族達は胸の痛みを抑えることができません。

その事故当時、生まれたばかりの赤子だった遺族たちが今では何人も亡くなってしまいました。それなのに日本政府からは今だかつて何の応答ももらえないまま、追悼式にだけ参加して帰るという状況がもう何十年続いていますか？

これからは、日本政府も会談を開いても良い時がきたのではないのでしょうか？あの冷たい海の底に眠る遺骨を発掘して祖国に安置する時が来たのでは無いのでしょうか？日本政府はこのことに対する返答を出して下さいますよう願います。

長生炭鉱は、戦争のエネルギーを生産する機関でありながらも数多くの命を海へ水没させてしまった日本政府はこのような現実から目を背けても良いのでしょうか？今からでも日本政府は反省し、遺骨の発掘にも追悼碑建立にも積極的に先頭に立って一日も早い解決策を出していただけますよう切に申し上げます。

日本におきましても地震による津波を経験され、その犠牲となられたご家族たちの痛みは表現することができないほどのものだったと思います。私たち遺族たちもそのご家族と同様、口では言い表すことのできない思いでいっぱいです。このような私たちの胸の痛みを察して下さいますよう切にお願い申し上げます。皆様のご家庭に幸福が共にありますよう心から願っております。

2012 年 2 月 5 日

長生炭鉱水没事故大韓民国遺族会

会長 金亨洙



【来日遺族】右から

金亨洙（キム・ヒヨンス）⇒全錫虎（チョン・ソッコ）

⇒朴洞模（パク・ヒョンモ）⇒尹玉基（ユン・オクキ）

3. 参加者の感想

○私の方でも出来ることをやってゆきます

塚田勲さん（「未来をひらく歴史」学習会講師、お連れ合い様と東京から参加してくださいました）

このたびはじめてチェサに参加し、遺族の方の悲しみをより身近に感じることができました。そして、追悼集会でも遺族の方の証言を聞きながら、悲しみは深まるばかりだということも改めて気づかされました。長生炭鉱のことを知らない人が多いなかで、「刻む会」のみなさんの長年のご苦勞も司会の井上さんのお話などから伺い知ることができました。「海の墓標」の合唱組曲も感銘深くお聴きました。男性合唱をした人が終わって私たちの席に会いに来てくれました。都立高校の教員仲間の方でした。びっくりするやらうれしいやらでした。こちらでも出来ることを少しずつやっていこうと思います。

○一人ひとりの市民の参加が待たれる

鯨野保雄さん（宇部市在住）通信発行所

二月五日、宇部市文化会館で開かれた長生炭鉱水没事故七〇周年追悼集会に参加しました。宇部市の床波海岸に建つ二本のピーヤは一九四二年の二月三日に起きた水没事故を示す「海の墓標」のようです。一八三人の犠牲者のう

ち一三七人が朝鮮人の人びとでした。忘れ去られようとしていた事故の記憶を記録にとめ韓国の遺族を招聘する活動を続けて二〇年。「長生炭鉱の『水非常』を歴史に刻む会」に主催による集会は、歴史の真実を見すえ、未来の平和のために欠かせないものですが、日本政府の無責任な姿勢を変えなければと思います。そのためには一人ひとりの市民の参加が待たれているのです。

○総括する能力を

山県順子さん(下関市在住)

長生炭坑七〇周年追悼集会で、遺族の全錫虎(チョンソクヒョ)さんは「従軍慰安婦」のことに触れられました。「戦争をしているのになぜ従軍慰安婦が必要でしょうか。」「もし必要であるなら日本人を連れて行かねばならないのに、なぜ韓国人(朝鮮人)女性を連れて行ったのですか。戦争は人間を「狂奔」させます。しかし、「戦争だったら仕方ない、戦争とはそんなものだ」、で済ませては人類の進歩はあり得ません。以下は私なりに得てきた「なぜ」に対する一つの結論です。

日本の軍国主義につながった「尊王攘夷」思想は、はるか昔、BC二世紀頃からの「中華思想」の流れを汲むもので、つまり自国を中心的文化国家とし、周辺は遅れた国家と考える「大義名分論」が、日本の封建的藩体制時代をも築き、その後の維新政治は「尊王」を倒幕に「攘夷」を開

国へと展開、これらが内包する矛盾を正しく総括しないまま進んだ結果、「帝国主義・軍国主義」に至ったのでは、ということです。自分(自国、男性)は正しく、相手(他国、女性)は劣っているとの潜在的思想は近代に植民地時代を風靡させ、歴史に女性蔑視思想を定着させ、それが現代も解消できない民族差別、女性差別として残っていると感じます。

元「慰安婦」だった宋神道(ソンシンド)さんの言葉です。「金(カネ)・々(カネ)・々(カネ)の政治は必ず戦争に行きつく。男は兵士に女は『慰安婦』に行きつく。一言でいえば金銭欲は人間の最大の罪だということです。

日本軍慰安婦制度の犠牲となられた女性たちに、加害国の一女性として心よりお詫び申し上げます。「過ちを改むるに憚ることなかれ」。日本政府は、今こそ歴史を総括する能力を発揮し、韓国政府からの「慰安婦」問題再協議の申し入れのテーブルに着く決断をするよう、要請します。

○七〇周年追悼集会に参加して

福田富美子さん(下関市在住)

ひとくちに、七〇年といっても、戦後生まれの私には想像することしかできない。母が筑豊の出身の関係から、炭鉱は身近に感じてはいたが、海底炭鉱はピンと来ないものがあつた。開戦間もないこの長生炭鉱水没事故―海底に埋められてし

まった一八三名のうち、一三七名が朝鮮の人々だったという事実。戦時下の都合な出来事はなかったということにしたがる日本人の多くは、忘れ去ろうとしたが、事実は決して消すことはできない。二〇年前から、この事故の記憶を記録し、決して忘れまいとする心ある人々は立ち上がった。

二月五日の水没事故七〇周年追悼集会に初めて参加し、私は自分の無知を恥じるとともに、自分で何ができるかを考えた。追悼碑建立のために些やかではあるが協力する。そして決して忘れず―ではなく、しっかりと心に刻み、いろいろな場面で継続して、身近な人に伝えていく―を決めた。

○合唱・海の墓標「わすれずにいよう」

朱文洪牧師(在日大韓基督教教会小倉教会)

アンニョンハシムニカ。朱文洪(チュムンホン)と申します。北九州に居て、毎年二月三日前後の追悼式に、数える程度しか参加できなかった事を詫びる思いで七〇周年追悼集会に参加させていただきました。消されていく歴史年間の姿を垣間見る思いでした。合唱「海の墓標」には犠牲者一八三名が歌として甦られ、清算されない歴史に恥ずかしい思いを深めている方々を励ましている。合唱の最後部分の「六・わすれずにいよう」は忘れかけても平気に居られる愚かなものにもう一

つの道を与えてくれました。

二月には三日(長生炭鉱水没事故／一九四二年)、八日(東京YMCAで起きた、朝鮮人留学生による朝鮮独立宣言／一九一九年)、一六日(尹東柱(ユンドンジ)詩人獄死／福岡刑務所／享年二七歳／一九四五年)等が暗闇の中で輝く光のような気がします。

○宇部での貴重な経験

増田恵津子さん(東京合唱団アルト)

宇部で二度目のフィールドワークをし、長生炭鉱の「水非常」七〇周年記念集会で演奏出来たことは、「海の墓標」を歌いたいと思いはじめた二〇〇七年秋には勿論、一年前にも想像も出来なかった快挙と嬉しく思っています。もしもすぐに実現していたなら、人々とのつながりも歴史的な意義もずっと小さなものだったに違いないと、運命的なものを感じ、いろいろな方々いろいろな巡り合せに感謝しています。

二月五日、朝から舞台作りに参加した時は、きつとお客様は少なめだろうけど、その中には事故のご遺族や刻む会や支援の方々がいらつしやる、一人ひとりにお詫びや感謝の気持ちを精一杯届けたいと決意をしていました。午後、ラーメン屋から会場へ戻ると、開場時間直後のロビーは展示物を熱心に見たりそれを解説する人、刻む会による証言・資料集【1】「アボジは海の底」(実

によく出ています)や、追悼碑建設費の足しにと「ピーアの絵ハガキ」を売る声などが飛び交っていました。

午後二時開演、大成さんの独唱の次が、刻む会代表山口さんの挨拶。昨年九月にも感じましたが、山口代表は病後の発声困難な中、懸命に歴史の事実を伝えようとする熱意が全身から感じ取れました。続くご遺族などの証言が、心に迫るものだったことは言うまでもありません。海底に消え、ご遺体のない悲しみは、昨年の東北の大津波の被災者とも共通するもの。加えて、そもそも植民地下の強制連行・奴隷労働・民族差別などへの怒りや憎しみが語られました。刻む会の方々への感謝は述べられても日本人による差別への怒りは深いものでしょう。

私たちの混声合唱組曲「海の墓標」の初演としては、これ以上ない、最高の時と場所が与えられたのだと思います。前日(二／四)、小高い丘にある坑口の跡地に立ち、そこからピーアの見える浜に降りて、海水に手のひらをつけた時のゾクッとする冷たさ、昨年の九月の時との違いを実感しました。海岸からさらに一キロも先で「海がほけた」とのこと、一体どれほどの地獄の時間が過ぎて行つたのか！

今回、現地を案内くださった「刻む会」の内岡さんから数々のお話を紹介していただき、パネル図の解説もしていただきました。

今回私にとつてのショッキングな事実は二つ、水没事故からそんなに時間が経たないのに坑口を塞いでしまったこと、そして坑口につめかけ抗議し、救いを叫び続けた家族や同胞などを容赦な

証言・資料集【1】 『アボジは海の底』

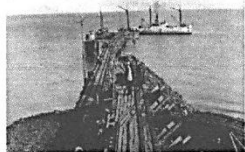
長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会編
2011年刊行 頒価 300円

生存者・目撃者証言の他、各種資料
売上は「追悼碑建立」のために全額用
いられます。

好評販売中！お問い合わせは事務まで。

証言・資料集【1】

アボジは海の底



長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

く排除して、翌日に混乱の中で起こったようですが、警察・憲兵が発砲し四人が殺害されたという話です(※3)。海と陸両方での地獄絵が目に浮かびます。

私たちの合唱が始まりました。私はナレーションの係でもありましたが、当然ながら東京で練習した時と気持ちの違い、目の前のご遺族に向けた思いを隠さず声に出しました。男性もきつと同じ、そしてコーラス全体も気持ちは練習を越えていたのでは？

予想よりずっとたくさんのお客様の前で、その時に持てる力と意思で演奏出来たと嬉しく思いました。それでも決して満足と言えるものではないことを忘れないでおきたい、パートのアンバランスだけでなく、まだまだ言葉が出なかったり音程が怪しかったりしました。東京ではご遺族や刻む会、そして現場の力を借りたり出来ませんから、私たちの音楽で伝えねばなりません。今回の初演経験をぜひとも生かしませう。

残念なこともいくつか。共演した女性合唱団との練習時間・交流時間が少なく一緒につくりあげたとの印象が薄いこと。韓国公演の経験も私たちの「海の墓標」演奏の先輩の大成さんの演奏後のお気持ちも。そして個人的には演奏後に共演者や刻む会の皆様にろくなご挨拶も出来なかったことを悔やんでいます。夜の交流会のお話もご参加された方々にどんな話が交わされた

のか紹介頂きたいとも思います。

来る四月三〇日の蒲田アプリコホールの公演につないでいきましょう。

※3 山口代表の一九九一年の宇部地方史研究で

は『二月四日事件』という事件で死者が出たと言われるとある。(注訳 内岡)

○遺族の方たちの思いを早く叶えて

岩淵とも子さん(東京合唱団ソプラノ)

二月五日、宇部文化会館ホールで行われた長生炭鉱水没事故七〇周年追悼集会に、東京合唱団の一員として参加し、『海の墓標』を地元の合唱団の方々とともに演奏してきました。式典のなかで遺族の方々が涙ながらに話されているのを、舞台の袖で淡々と聞いていました。集会終了後の交流会に出させていただきましたが、そこには在日の韓国の方々がたくさんいらつやって、その場で身近にお話を聞いた時、舞台の袖で聞いた時とは違う、できるだけ協力したいという思いに駆られました。海底に閉じ込められたままの人たち、遺族のみなさんの思いを早く叶えて心休まる日にしていかなければならないと、改めて痛感しました。交流会のなかで『アリラン』は、そのときその時の喜怒哀楽を表す歌だということも教えていただきました。「そうだったの」という思いで、陽気なアリランも一度聴いてみたいですね！

そして一番ショックだったことは、水没事故が起きてまだ間もない時間に海底炭鉱への坑口を塞いだという事実です。二重にも三重にも人を殺したのです。追悼集会のあと有志で、長門市の金子みすゞ記念館、香月泰男美術館、くじら資料館、津和野などを見学、散策してきました。そして宇部から帰った翌日、ニュースで岡山の倉敷での海底トンネル事故が報じられました。なにか「わつ」とした思いが身体を通り、とても恐ろしいことが起こったと震えました。宇部の炭鉱の事故を身近に感じていなかったら、これほどの思いに至らなかったのではないかと思います。

昨年九月の佐賀公演で立ち寄ったピアアの浜、今回の浜も、何事もなかったかのように波が打ち寄せていました。浜の美しい貝に魅せられて、たくさん拾ってきました。昨年は小ぶりの貝ばかりでしたが、二月の貝はとても大きく立派でした。昨年の福島原発事故以来、これらのものすべてがこの美しい貝も海水も、魚たちも、空気もすべてが汚染されてしまったのです。だれのものでもないこの地球のはずなのに：こんな地球に、残された時間の中になにができるのか：なぜ小学生にも判る平和の大切さが立派な大人に判らないのか、どうしたらいいのか、せつかな私は腹が立つのです。

いいこともありました。一〇年ほど前に宇部に帰郷していた友人が聴きに来てくれ、その友人が

「歴史に刻む会」の山口代表と知り合いだと言っていました。これをきっかけに彼女がなんらかの形で支援の輪に加わってくれたらとても嬉しいことです。

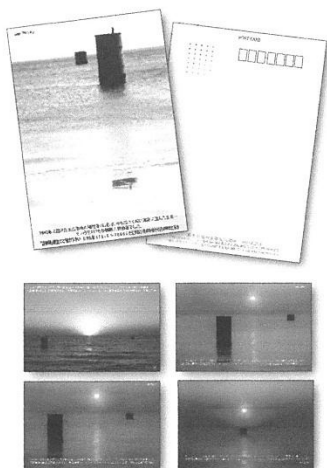
「オリジナルポストカード」

本日発売開始 頒価 200円(5枚セット)

地元写真家等によるピーヤの写真絵はがき。カラー4種、モノクロ1種。

売上は「追悼碑建立」のために全額用いられます。

好評販売中！お問い合わせは事務まで。



☆中国新聞・天風録(二〇二二年二月三日朝刊)

太陽光のジャンボ発電所が築かれることになった宇部市はかつての産炭地。海の底にも炭田があった。JR宇部線沿いの周防灘に突き出す排気口が、長生炭鉱の名残と知る人はそう多くあるまい。七〇前のきょう、落盤と水没で幕を下ろした。

炭鉱災害は「非常」と呼ばれる。水没事故は「水非常」。むごいことに労働者たちは坑道に閉じ込められたまま、いまだ一片の遺骨さえ引き揚げられていない。一八〇人を超す犠牲者の大半は強制連行を含む朝鮮人という。

「非常ノ為死亡ス」。そう刻まれた墓が中国山地の島根県邑南町にも点在する。大正時代、出稼ぎ先の福岡で炭鉱事故に遭い、夫婦連れや若者約七〇人が命を落とした。列強に追いつけと拍車のかかる石炭増産の陰で繰り返された悲劇の一つである。

炭鉱史の研究で邑南町を歩いた広島市安佐南区、石井出かず子さん(八三)の手元に墓碑銘の拓本や写真が残る。その中に「非常」と彫った墓石があった。涙にむせぶ遺族の姿がしのばれよう。

宇部市内ではこの日曜日(二月五日)、追悼の集いがある。鎮魂と償いの組曲「海の墓標」の合唱がささげられる。日本の歩みを支えてきた労苦を忘れ去る非情は許されない。

「刻む会」活動目録(前回「たより」以降)

二〇二一年

- 二月一日(木)
 - ▽事務局会議及び建立委員会
 - ▽宇部市との協議
- 二月十八日(金)
 - ▽有帆人権教育推進協議会フィールドワーク
- 二月二十三日(水)
 - ▽韓国より牧師五人来日・フィールドワーク
- 二月二十九日(火)
 - ▽宇部市との協議
- 二月三十日(水)
 - ▽グリーンコープやまぐち中部地域平和学習会にてパネル展示 DVD上映
- 二月一日(土)
 - ▽第一回住民説明会
- 二月二十五日(木)
 - ▽事務局会議及び建立委員会
- 二月二十七日(火)
 - ▽宇部市との協議

二〇二二年

- 一月一日(火)
 - ▽事務局会議及び建立委員会
- 一月四日(土)
 - ▽遺跡保存のためのフィールドワーク
- 一月二十七日(金)
 - ▽宇部市との協議
- 二月四日(金)
 - ▽追悼集会準備
- 二月五日(土)
 - ▽東京合唱団フィールドワーク
- 二月六日(日)
 - ▽遺族来日 チェサ
- 二月六日(日)
 - ▽水没事故七〇周年追悼集会
- 二月十七日(金)
 - ▽遺族との話し合い
- 二月二十三日(木)
 - ▽事務局会議及び建立委員会
- 二月二十三日(木)
 - ▽宇部市との協議

混声合唱組曲 「海の墓標」

1. 海の墓標

周防灘の波よせる
宇部の海に
炭鉱の跡
「長生炭鉱」

海の中に立つえんとつのようなもの

あれがピア

海底炭鉱の排気口

あれがピア

五〇年前につながらる入口

古びた太い入口

あれがピア

コンクリートのピアは

波に洗われ

風に打たれ

五〇年前の悲しみを訴える

ピア

海に立つそれは墓標

海の墓標

2. 危険な炭鉱

海の底の炭鉱は

この上なく危険

いつ海水でつぶれるかわからない

死に向かい合い

死に肌をなでられる

危険の中で石炭を掘ったのは

朝鮮半島から来た人々

船で連れてこられた人々

無理やりに釜山ラサンから

船で連れてこられた人々

一日二円の低賃金

一日十二時間日本人の監督に

となられおどされ

働いて働いて

ただ寝るだけの毎日

逃げれば半殺し

宇部の町にも出られない

手紙も自由に出せない

食事もだんだん少なくなった

それでも

ふるさとの家族にお金を送り

ふるさとに帰る日を楽しみに

空気の足りない坑道に今日も入る

空気は薄くハンマーは重く

それでも心は

ふるさとへ

ふるさとへ

3. 哀号

一九四二年二月三日

数日前から水は漏れていた

危ないことは分かっていた

しかし

石炭を掘り続ける

戦争を始めた日本にとって

何より大事な石炭

掘り続けることが上からの命令

『一九四二年二月三日は

「大出し」といって、

炭鉱夫が総動員された日でした

休んでいた人もかりだされました

その日の朝、大きな事故が起こった

のです。

ジー！ パリパリ！

水がほけた！

海がほけた！

逃げろー！ 逃げろー！

哀号！ 哀号！

水が襲ってくる

水が追いかけてくる

逃げなければ

走らなければ

水が、人が、

水が、人が、

海水の恐ろしい力

恐ろしい勢い

水が襲ってくる

水が追いかけてくる

水が襲ってくる

水が追いかけてくる

逃げなければ

走らなければ

水が、人が、

水が、人が、

海水の恐ろしい力

恐ろしい勢い

奥で働いていた人たちは

逃げようにも逃げられない

逃げられたのはほんの数人

来ていた服を脱ぎ捨て

水の中に飛び込み、

あとは ああ

あふれる水に吸い込まれ

渦巻く水にのみこまれ

崩れた坑道に埋もれていく

あがき苦しむ顔、顔、

哀号！ 哀号！

4. きこえてくる

ピアの下に

今も眠る一八三人

《ナレーション》

一八三人。そのうち

朝鮮半島から来た人々が一三五

人。

遺体も引き揚げられず、

一言の謝罪もされず、

異国の海で眠っている。

きこえてくる

きこえてくる

海の中から

苦しかった男たちの最後の声

生きなかった男たちの怒りの声

波の音とともに

風の音とともに

きこえてくる

きこえてくる

海の中から

ふるさと呼んでいる友だちの声

家族を呼んでいる父たちの声

波の音とともに

風の音とともに

きこえてくる

海の向こうから

亡くなった息子を呼ぶ

母たちの叫び声

亡くなった夫を呼ぶ

妻たちの泣き声

波の音とともに

風の音とともに

5. 生きていれば

《ナレーション》

朝鮮半島から来て

炭鉱夫となった彼らは、

たいがい若いまま亡くなりました。

福岡県、慶尚院(けいじやういん)の

崔(さい)慶尚住職(けいじやうしゆく)の

殉職産業人名簿(じゆんしやくさんぎやうめいぼ)という

大変貴重な名簿があります。

そこには、長生炭鉱の事故で

亡くなった

人々の氏名が記されています。

朝鮮人名は日本名に変えられ

ています。

大井南石(おおいなんしき)二四才

大山春得(おおくはるよ)二二才

竹原相俊(たけはらさうしゆん)一八才

原田永基(はらだえいき)二五才

金本甲洙(きんぽんこうしゆ)一八才

彼らの多くは、日本へ来て

わずか一〇ヶ月で亡くなった

のです。』

日本に連れてこられなければ

今も元気だったに違いない

彼らの妻は生きて

彼らの兄弟も生きて

生きて涙を流している

日本に連れてこられなければ

ふるさとの畑で風に吹かれ

いとしい子供たちに

かわい孫たちに
囲まれていたに違いない
日本に連れてこれれ
そして今
暗いさびしい海の底
鳴咽を聞くのは魚だけ
寄ってくるのは魚だけ
6. わたしに
今 わたしたちを包む
この部屋の暖かさ
家族のまなざしの優しさ
その中で
でもその中で
忘れてはいけないこと
振り返らなければならぬこと
わたしたちの国が
かつてアジアで
何をしてきたか
どんなにたくさん
アジアの友だちを
苦しめ
悲しませてきたことか
せめて忘れずにいよう
周防灘の海の墓標を
歌い継ごう
周防灘のレクイエムを
苦しみの
海鳴りの歌を
わすれずにいよう
わすれずにいよう
わたしたちのレクイエム
届け
海の底へ
朝鮮半島へ
世界へ

「悪魔の飽食」をうたう東京合唱団とは

●混声合唱組曲「悪魔の飽食」について

「悪魔の飽食」は、1938 年ごろから敗戦直前まで、旧満州において、3000 人以上の捕虜に対し、細菌・毒ガス等の禁止兵器製造のための生体実験を行った旧日本陸軍731部隊の残虐・非道・悲惨をきわめた行為を告発した森村誠一氏のドキュメントです。

この組曲は、1984 年、神戸市役所センター合唱団の委嘱を受けて、森村誠一氏がそのドキュメントにもとづき原詩を、池辺晋一郎氏と同合唱団が編詩を担当し、池辺氏が作曲したものです。731部隊の実情から歌いはじめ、「この世の地獄」で繰り広げられた非道な行為、「マルタ」といわれた囚われた人々の次の世代に託す思いを歌いあげ、戦争の悲惨さを忘れず、未来に語り継ごうとしめくった七章からなる鎮魂合唱組曲です。その重い内容のメッセージを、高い芸術作品につくりあげた池辺先生は「この歌を歌わなくてすむ日が来るまで歌い続けなければならない」と言われています。

●東京合唱団について

東京合唱団は、1995 年の「悪魔の飽食」の第1回全国縦断コンサートの時に設立され、現在、東京をはじめ首都圏の50人ほどの団員でとりにくんでいます。全国連絡会が主催する池辺晋一郎指揮の全国縦断コンサートへの参加のほか、さまざまな曲の演奏にもとりにくみ、独自の「悪魔の飽食」首都圏巡回コンサートなどの演奏会の開催や諸集会での演奏にもとりにくんでいます。

来る4月30日、東京・蒲田で開催される「2012 Concert」で、『二つのレクイエム～平和への希いをこめて』のテーマのもとに『悪魔の飽食』とともに『海の墓標』を、長生炭鉱水没事故70周年追悼コンサートとして演奏します。その準備のなかで、「刻む会」との出会いがあり、現地訪問などを通じて、今回の追悼集会での演奏参加となりました。

「70 周年犠牲者追悼集会」会計報告 (円)

	金額	備考
会場費	85,482	
事務費	35,271	
宿泊費	15,920	
接待費	34,699	夕食・昼食他
遺族渡航費	80,000	
合唱団招請費	187,600	
支出合計	438,972	

全額「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」会計より支出。
同会計残高 187,681 円

「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」募金者 (2011 年3月1日～2012 年2月29 日)

(個人) 小川 信 石川宣道・まなか 石飛 宏 岩本乾治 小林知子
齊藤美代子 坂 貞子 塚本勝彦 福島直子 山田健一 吉村敬二
(団体) 日本基督教団長府教会

合計 55,000 円
以上、感謝をもってご報告します。

「長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金」会計報告（2011年11月1日～2012年2月29日）（円）

収 入				支 出			
科目	期間実績	総額	備考	科目	期間実績	総額	備考
カンパ	703,032	5,629,410		事務費	39,780	190,140	募金パンフ印刷他
物販	48,500	48,500	絵はがき他	委員会費	0	7,140	
雑収入	3,000	9,026	電柱設置料	土地管理費	0	1,195	
加藤登紀子コンサート	0	769,037		雑支出	10,630	41,040	振替手数料他
借入金	0	4,850,000		建立費	0	7,639,130	土地代整地代
積立金	0	1,430,000	刻む会会計より	繰出金	0	14,870	刻む会会計へ
				税金	0	227,485	固定資産税他
				小 計	50,410	8,121,000	
				残 高	704,122	4,614,973	
合 計	754,532	12,735,973		合 計	754,532	12,735,973	

(個人) 池田沖夫 石川宣道・まなか 市川和子 猪股清子 猪股清子
植木孝一 牛見信夫 内岡貞雄 内岡三枝子 内山新吾 浦部頼子
江柄勝雄 江木鶴子 大菅 新 大隅督子 太田清子 岡田淳子②
岡田雅宏 岡田美代子 岡本愛子 金澤正善 岸高久徳 木村和彦
國吉幸子 熊谷仲美 香渡清則 古賀明江 崔 正剛 斉藤秀子
斉藤美代子 佐々木赫子 鈴木 激 鈴木忠実 須原志保 高橋靖子
澄田亀三郎・典枝② 塚本勝彦 辻 健 鄭 恵子 寺尾令子
富樫康雄 殿河内純子 鳥野小百合 中島郁子 中島郁子 奈古屋長世
西田万里子 西村 望 野村孝子 野村豊子 萩ルイ子 花房俊雄
濱崎利範 原くに子 東島勇人 弘中淑子 福田富美子 藤井和義④
朴 鐘喆 牧野 哲 松山美代子 真鍋みどり 萬代聰子 三戸 進
都 相太 森山武昭 山田健一② 横山正代

(団体) 「悪魔の飽食」をうたう東京合唱団 アジア共同行動山口
有帆地区人権教育推進協議会 在日本朝鮮人総連合会山口県本部
在日本大韓国民団宇部支部 在日本大韓国民団山口県地方本部
駐広島大韓民国総領事館 平和統一連合 平和統一連合中国地方本部
日本基督教団宇部教会・宇部緑橋教会有志・宇部緑橋教会・隠岐教会・小郡教会
長門教会・萩教会・防府教会

その他匿名など 14 件（追悼集会会場カンパを含む）

（丸数字は回数）

以上、感謝をもってご報告します。

募金へのご協力をお願い

- 「長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金」にご協力下さい。
 - 「募金パンフレット」の配布にご協力下さい。
 - 「募金パンフレット」の設置にご協力下さい。設置した場所を事務局までご連絡頂ければ幸いです。
 - 「募金パンフレット」記載の賛同者となって下さい、募って下さい。
- ※「募金パンフレット」はお気軽に事務局までご請求下さい。